

# 地域の農環境と農文化を伝承 ～土と人と夢と技で農を生き抜く～

豊田市 株式会社「中甲」  
水稲・小麦・大豆 主体

【平成25年8月19日掲載】

豊田市は、自動車産業が盛んな工業地帯として有名ですが、水稲の作付け面積が県下No. 1であることは意外と知られていません。その豊田市で水稲と小麦及び大豆作を主体として、延べ500haの大規模な経営を行う株式会社「中甲」を紹介します。

## 4Hクラブのメンバーでスタート

約50年前、豊田市では日本経済の高度成長に伴って自動車工業が発展しました。一方で、農家の兼業化が進んで担い手が減少し、田植えや稲刈りなどの作業の委託を希望する人が急増しました。

このような時代を背景にして、昭和37年に豊田市高岡地域の4Hクラブ(\*)員を中心にして、株式会社「中甲」の前身となる農協直営の水稲作業受託組織が結成されました。メンバーは20歳前後と若く活動的で営農意欲がとても高く、地域の要望に応えることが出来たため、作業の受託面積は着実に増加しました。

昭和49年には、農協から独立して農事組合法人「中甲」が設立されました。そして、平成22年には、意志決定をスピードアップするために会社の組織体制を整えて、株式会社「中甲」となりました。



「中甲」の事務所正面玄関

## 多種多様な人材の育成

株式会社「中甲」の社員は25名（役員4名、従業員21名）ですが、半分近くが非農家の出身で、例えばバンドマンや塾講師など職歴も様々です。杉浦社長も非農家の出身です。最初は、農事組合法人「中甲」の構成員に誘われてアルバイトから始めたそうです。

「中甲」では、構成員の人材育成に力を入れています。農業機械などを操作する技術は、ほ場のエリアごとの部門に分かれて、ベテランの従業員と一緒に作業を行って覚えます。経営管理に関しては、従業員が多くて全員が実務経験を出来ないため、JA愛知中央会等が開催する経営研修などを活用しています。また、作業の専門化が進み、1人が年間を通じてほ場を管理する機会がないため、管理職以外のすべての従業員には、1人ずつほ場をあてがって責任を持って管理することで、水稲栽培の基本を学べるようにしています。また、4Hクラブへの加入を勧め、地域の



「中甲」の従業員一同

農業者と積極的に交流を図るとともに、経営の中から課題を見つけて解決策を探る“プロジェクト研究”にも意欲的に取り組むように誘導しています。

杉浦社長のように、非農家出身でも、将来は会社の経営に関わることができます。「約50年という長い歴史の中で、代表者の後継者を選ぶのに苦労したこともある。組織が存続しているのは、設立当初の構成員の中で“会社として事業を継承していきたい”と意識の統一が図られていたのが大きな要因だった」と、杉浦社長が語ってくれました。



「中甲」が管理する水田。  
小区画のほ場も少なくない

## 地域で果たすべき責任

「中甲」は農地を所有していません。経営耕地のほとんどが利用権設定による借地で、貸借期限満了時には返還する可能性があります。それでも、毎年、土壌診断を行って土壌改良材や堆肥の投入を継続しています。また、委託された水田の畦畔の草刈りだけでなく、農道や用水路など地域の共有地の草刈りも行い、農地の保全に努めています。これらは、地域の財産である農地を荒らさない（地力を低下させない・景観を守る）という考えによるものです。“土と人と夢と技で農を生き抜く”という経営理念が活かされています。さらに、この地で事業を継続するには、地域住民の理解が不可欠と考えて、小学生の体験学習の受け入れや、消費者団体との交流事業も長年続けています。

こうした活動が地域からの信頼へと繋がり、毎年、10 ha近くの水田が「中甲」に集まっています。

## 今後の事業展開

「中甲」では、3年ごとに中期計画を策定しています。平成22年からの3か年では、園芸課を創設し、水稻の農閑期におけるキャベツの栽培を軌道に乗せました。地域の直売所などからの要望も大きいため、キャベツ以外の作目の試験栽培も行いました。

また、全作業時間の1/3を占める草刈り作業を省力化するため、「中甲草刈り隊」（外部委託）を結成し、新たな除草体制の構築を図っています。

最後に、杉浦社長に長期的な目標を訪ねたところ、「農業者と消費者の距離を縮める“農業界のエンターテイメント集団”を目指して、観光農園なども考えていきたい。そのためにも、まずは園芸事業を軌道に乗せ、将来的には畜産にも取り組みたい」と語ってくれました。

20歳前後の4Hクラブの構成員が結成した「中甲」は、今年度で法人設立40周年を迎えますが、組織としての“プロジェクト研究”はまだまだ続いています。



間もなく始まる収穫作業に向けてスタンバイ

(\*) 4Hクラブ・・・これからの農業を担う若者が地域社会において交流と親睦を図りながら、農業の生産技術や経営を学ぶとともに経営上の課題を解決する力を養うことを目的としてつくられた学習グループ

執筆：農業経営課

取材協力：豊田加茂農林水産事務所農業改良普及課